



桂文我独演会

本日の演目

「開口一番」

林家染吉

芸達者が揃っている大阪の林家一門の中でも、今後、期待されている一人と言えましょう。林家の落語は、わかりやすく面白いです。ライトな演じ方のように思いますが、よく聞くと、深い味わいがあることに気がきます。

「高台寺」

桂文我

日本全国に『子育て幽霊飴』という怪奇伝説が残っていますが、特に京都の逸話が有名で、今でも幽霊飴の店があり、その伝説に淀君の菩提寺の高台寺を因ませた落語として成立しました。滑稽な内容に、人情が滲み出る一席。

「長短」

笑福亭伯枝

師匠・六代目笑福亭松鶴の芸を濃厚に継ぎ、入門当初から期待されていました。体を鍛えて筋肉隆々という、斬家には珍しい御仁です。パワフルな高座を、十分にお楽しみください。

「小間物屋小四郎」

桂文我

世の中、何が起るかわからないのは、今も昔も変わらないようです。このネタは「人間社会のボタンの掛け違い」が主眼ですが、事実談を纏めた斬のように思います。このような境遇になったら、どうしましょう？

△ 中入り ▽

「一人酒盛」

桂文我

「酒は百薬の長」とは酒呑みの言い分ですが、酒を呑まない者は「酒は命を削る鮑」と申します。何方にしても、酒はほどほどに呑む方がよさそうです。ところで、この落語の主人公と一緒に酒を呑みたいと思う方はいないと思います。

